

入居者の暮らしに向き合う

社会福祉法人緑風会 特別養護老人ホームエリザベート成城

伊藤 陽平、松野 智優

(個別ケア ユニットケア 望む暮らし)

1. 目的

私たちの施設理念は、「私たちは、入居者の皆さまのこれまでの暮らしを継続し、心と心を大切に笑顔で豊かな生活を支援します」と掲げています。入居者の方々が、どんな暮らしをしてきたのか、また施設でどんな暮らしをしたのか、趣味・嗜好などあらゆることを知ること、つまりその人の暮らしぶりと人となりを理解しサポートすることが理念の実現に繋がると考えています。

しかしながら、日々職員は入居者の生活のサポートをしながら、入居者のことを知っているようで知らない、または知っていても実際のサポートに繋がっていないことがあり、入居者様に対するサポートの方針やその方法の統一性に欠けてしまっていることがありました。そこで、今一度、ケアチーム全員で入居者に向き合うことの大切さを再認識し、入居者が想う「暮らし」の実現ができることを目的に取り組むこととしました。



2. 実践内容

- (1) 入居者の想う暮らしのアセスメント（入居者本人、その家族、関わるスタッフ全員へ聞き取り）
- (2) 眠りスキャンを使用し、睡眠状況から暮らしのリズムを確認する。
- (3) 調査の結果の整理・分析を専用シート用いて行う。
- (4) 整理・分析した結果から24時間シートを作成し、実際のケアを実施する。
- (5) 実施したケアで入居者の暮らしにどう変化があったのかなど評価・振り返りを行う。

3. 結果

入居者一人ひとりの暮らしをアセスメントする中で、「知らない」「そんなことを想っていたんだ」ということがたくさん出てきました。また各職員・各職種であまり共有されていなかった些細な情報が思った以上にたくさんあり、それを整理・分析すると今までとは違った入居者像が見えてきました。そして、その分析した情報をもとに今まで行っていたケアを見直し、入居者の望む暮らしに近づけるよう実践することとしました。暮らしの様子は、眠りスキャンのデータ結果からも知ることができました。視覚的に確認できるので、暮らしの課題や生活リズムの特徴を把握しやすいです。左右別々の入居者の方のデータ結果ですが、生活リズムが特徴的で暮らしの様子が伺えます。

これまでの整理・分析したものをもとに、入居者個々に望む暮らしに近づけるよう目標設定し、ケアの実践を行いました。そして、1か月ごとに各入居者の目標に近づくことができているか振り返り、評価するようにしました。実際に取り組んでいくと、考えていたことと違うことや新たな入居者の想いを知ることがありました。最初は、今まで行っていたケアに加え実施するので、入居者より職員の方に戸惑いがありましたが、月日を重ねるごとにスムーズに行えるようになり、入居者の生活に

